

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	ぐんま未来大学短期大学部
設置者名	学校法人 桐丘学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	アート・デザイン学科	夜・通信	-	-	7	7	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバス検索機能により公表 (https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/syllabus/)。 「WEBシラバス検索」から「実務経験のある教員の有無」で「有」を選択すると閲覧できる。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ぐんま未来大学短期大学部
設置者名	学校法人 桐丘学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	みどり市長	R7. 5. 27～ R11. 5. 26	企画・調整 地域連携
非常勤	前桐生市教育長 前全国都市教育長 協議会副会長	R7. 5. 27～ R11. 5. 26	地域連携 中長期計画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ぐんま未来大学短期大学部
設置者名	学校法人 桐丘学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を項目として設定したシラバスを担当教員が作成している。	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程 教務係より担当教員に入稿依頼後、科目担当が教員用WEBサービスにて登録を行う。一次締切後、各学科の教員間でシラバスチェックを行い、担当教員へ返却する。シラバスチェックの意見を修正の上、教務係で最終チェックを行い、学生へ公開している。 ・授業計画書(シラバス)の作成、公表時期 12月下旬 入稿依頼 1月中旬 一次締切 2月上旬～中旬 シラバスチェック期間 3月上旬 修正締切 3月下旬 公表 	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 (https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/syllabus/)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各学生の学修成果に基づき、あらかじめシラバスにおいて設定した成績評価の方法や学生生活ハンドブック等に記載されている成績評価の基準により教員が成績評価を行い、教務係で点数と成績評価の相違がないか確認することで、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・GPA等の客観的な指標の具体的な内容(指標の算出方法)

【算出方法】

GPAは次の計算式によって算出される。

$GPA = \frac{\text{履修科目の単位数} \times GP}{\text{履修科目の合計単位数}}$

(小数点以下3位を四捨五入)

GPAは成績評価のよい科目が多いほど高くなり、成績評価の悪い科目が多いほど低くなる。

※成績評価が「欠席」および「資格なし」の科目も計算の対象とする。

GPAの計算対象となる科目は基礎科目、専門科目、教職科目。

(GPAの種類)

学期 GPA	各学期で履修・修得した科目のみで計算
学年 GPA	当該学年で履修・修得した科目のみで計算
累積 GPA	これまで履修・修得した科目全てで計算

※累積GPAの計算では、計算対象とする成績評価は最終確定した成績だけで無く、それに至る不合格成績がある場合にはそれも含む。例えば、ある科目について、最初評価が「欠席」、再履修後の評価が「55点(D)」、再々履修で「61点(C)」の評価確定した場合に、「61点(C)」評価だけで無く、「欠席」、「55点(D)」も計算対象となる。

・客観的な指標の適切な実施状況

あらかじめ設定した算出方法により、GPAの数値を算出する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・卒業の認定に関する方針の具体的な内容
建学の精神に基づきディプロマポリシーを設定、公表している。

アート・デザイン学科

1. 「環境」や「コミュニケーション」の側面から、「人間の生活空間」について多面的に理解している。
2. 対象の理解をもとにして表現するための知識や技能、および選択した専門分野の知識や技能を修得している。
3. 実践的なデザイナーやアーティストとして活躍できるように、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を修得している。

- ・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

ディプロマポリシーと卒業要件単位数（62単位）を踏まえ、教務委員会、教授会の議を経て学長が卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにて公表

<https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/cpdp/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	ぐんま未来大学短期大学部
設置者名	学校法人 桐丘学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kirigaoka.ac.jp/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kirigaoka.ac.jp/financial.html
財産目録	https://www.kirigaoka.ac.jp/financial.html
事業報告書	https://www.kirigaoka.ac.jp/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.kirigaoka.ac.jp/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 短期大学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.gmu.ac.jp/guidance/org)
(概要) アート・デザイン学科 幅広い知識と視野の獲得、自らの関心に基づいて創作活動へ取り組むことができる力の育成、物事に対する洞察力を基礎とした創意溢れる表現力の探求を重視し、社会に貢献できる人材の育成。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/cdpd/)
(概要) アート・デザイン学科 1. 「環境」や「コミュニケーション」の側面から、「人間の生活空間」について多面的に理解している。 2. 対象の理解をもとにして表現するための知識や技能、および選択した専門分野の知識や技能を修得している。 3. 実践的なデザイナーやアーティストとして活躍できるように、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/cdpd/)
(概要) アート・デザイン学科 1. アート・デザインの領域を担うものにとって必要な「人間の生活空間」についての理解、「環境」や「コミュニケーション」に関わる知識を修得するための基礎的な学習を目的とした「基礎科目」を配置する。 2. 「対象の理解をもとにした多様な表現」の体系的な学修を目的に、5 分野から選択できる「専門科目」および分野を横断した共通の「専門科目」を配置する。 3. 実践的なデザイナーやアーティストとして活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、「専門科目」の中にそれまでの学習を統合・発展させる科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/cdpd/)
(概要) アート・デザイン学科 アート・デザイン学科では、幅広い知識と視野の獲得、自らの関心に基づいて創作活動へ取り組むことができる力の育成、物事に対する洞察力を基礎とした創意溢れる表現力の探求を重視し、社会に貢献できる人材の育成を行っています。そのため、知識・技術の習得について努力を継続し、創作活動に対する目標を明確に持ち、興味のある分野を深く探求できる人を求めています。
入学者選抜の基本方針 入学試験では、基礎的能力と本学への進学意欲・アート・デザイン分野への適性が主な評価の観点となります。基礎的能力とは高等学校での学習成果全般が対象となっており、短期大学での学習に共通して必要となる基礎的な力を示します。具体的には、各必修修教科への習熟状況や出欠席数、課外活動への取り組み状況等が挙げられます。進学意欲とは、

アート・デザイン分野や本学の教育環境に対する理解と関心を示し、適性とは、アート・デザイン分野の学びに対応する能力(描写力、発想力等)を示します。進学意欲の向上と適性の獲得に有用な事として、高等学校における芸術教科、あるいは創造的な課外活動への積極的な取り組みを、一例として挙げるすることができます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
アート・デザイン学科	—	5人	1人	2人	2人	1人	11人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		15人					16人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/kyouin/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
アート・デザイン学科	50人	57人	114%	100人	115人	115%	0人	0人
合計	50人	57人	114%	100人	115人	115%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
アート・デザイン学科	53人 (100%)	9人 (17.0%)	22人 (41.5%)	22人 (45.5%)
合計	53人 (100%)	7人 (13.2%)	22人 (41.5%)	24人 (45.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法等を項目として設定したシラバスを担当教員が作成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書（シラバス）の作成過程 教務係より担当教員に入稿依頼後、科目担当が教員用WEBサービスにて登録を行う。一次締切後、各学科の教員間でチェックし、担当教員へ返却し、修正の上教務係で最終チェックを行い、学生へ公開している。 ・授業計画書（シラバス）の作成、公表時期 12月下旬 入稿依頼 1月下旬 一次締切 2月上旬から中旬 シラバスチェック期間 3月上旬 修正締切 3月下旬 公表

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>ディプロマポリシーと卒業要件単位（62単位）を踏まえ、教務委員会、教授会の議を経て学長が卒業を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
ぐんま未来 大学短期大学部	アート・デザイン 学科	62単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
ぐんま未来大学短期大学部	アート・デザイン学科	680,000円	250,000円	540,000円	教育充実費 465,000円 振興費 25,000円 休学在籍料 50,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・入学前教育、初年次教育 入学予定者に行う入学前ガイダンスとスクーリング、希望者を対象に入学前講座を実施している。大学入学前に基礎学力の維持・向上をはかり、スムーズに大学生活が送れるようにレクチャーしている。スクーリング期間には、課題でわからない部分などについて説明を受けることもできるような体制をとっている。 また、初年次教育プログラムとして入学後のオリエンテーション、図書館ガイダンス、学科独自のガイダンス等で実施しており、アカデミックスキルやより自主的な学びを支えるための学習スキルの習得、望ましい学習態度の育成、専門職業人の意識を高めることを目的とし、大学での学びに円滑な移行ができるようサポートしている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 医療保健学部では2年次から、短期大学部では1年次から、キャリアガイダンスを実施し、仕事をすることの意義を学べるようにしている。その後も継続して、履歴書の書き方や面接対策、試験対策をキャリアガイダンスや個別相談で対応している。また学内にて、合同企業説明会を、年間に複数回、実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングを担当する組織として、ウェルネスセンターがある。その役割として、年度当初に実施する学生健康診断の企画・運営、また医療機関との調整のうえインフルエンザ等予防接種の実施計画とその運営、そして日常的な保健室の運営の3点を担っている。保健室では可能な応急手当や相談に応じている他、こころとからだの相談窓口として学生本人や保護者が専門家に24時間健康相談できる「ぐんま未来大学・ぐんま未来大学短期大学部こころとからだの健康ダイヤル」を開設し、心の不安や身体の気になることなどへの対応を強化している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.gmu.ac.jp/guidance/org/kyouin/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F210310101905
学校名 (〇〇大学 等)	ぐんま未来大学短期大学部
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 桐丘学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		35人（ 16 ）人	37人（ 15 ）人	72人（ 31 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	11人	12人	
	（うち多子世帯）	（ — ）	（ — ）	
	第Ⅱ区分	—	—	
	（うち多子世帯）	（ — ）	（ — ）	
	第Ⅲ区分	—	—	
	（うち多子世帯）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	—	—	
区分外（多子世帯）	—	—		
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				72人（ 31 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	—
計	人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	—

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。